

# きほく通信

第14号

2009年  
10月20日  
発行

那賀地方  
患者家族会  
きほく

【会長】神森 和子  
紀の川市中三谷  
【相談室】0736 (77) 5161  
【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371  
森田方 TEL 0736 (75) 4413

## 国会請願一斉街頭署名活動

09年10月3日

今回のJR和歌山駅前での街頭署名活動は、和歌山県難病連会員やボランティアを含めて17名が参加して10月とはいえ残暑厳しいなかで実施されました。きほくからは神森会長、田中節子さん、森田事務局長夫妻が参加しました。



- 今年の請願の重要項目は、
1. 5千以上あるといわれる全ての難病を研究事業の対象にして下さい。
  2. 一生生涯治療が必要な難病の医療費負担を軽減して下さい。
  3. 子供の難病は大人になっても医療費の助成をお願いします。
  4. 和歌山県外へ通院しなくてもいいように、専門医療の地域格差をなくして下さい。
  5. 医師や看護師が不足している、地域医療を再生して下さい。
  6. 難病相談支援センターを充実して下さい。
- 以上の6項目で、今年には用意した拡声器の調子が悪く、参加者それぞれが「難病患者のための署名にご協力をお願いします」、「難病の総合対策を求めている国会請願署名にご協力をお願いします」、「署名よろしくお願いします」などと大きな声で署名を呼びかけました。

いつものように、多くの中学生や高校生の若者たちが署名や募金に快く協力してくれました。なかには「どういう主旨の署名ですか?」とたずねる生徒もあり、会員からは「難病は一生治らない病気なんです。本人になんの責任もないのに、働けないし、生涯治療しなくてはならないんですね。難病の種類は5~7千もあると言われています。しかし国が難病として患者を手助けしている病気は45だけなんです。全ての難病患者が救われるように国会に皆さんの署名をもって要望するんです。どうか署名にご協力をお願いします」などと説明されていました。

また紀の川市の男性は「こういうのって役に立つんですか?あまりそう思えないけどなあ...」と言いながら、署名に協力してくれていました。森田事務局長は「署名活動は20年になりますが、この署名の力で全国に難病相談支援センターができました。昭和47年から36年間で45疾患しかなかった国の難病指定が、今年だけで新たに11疾患の難病が特定疾患に認定されます。こういう署名活動の継続はある時には国を動かす大きな力になるのです。ご協力ありがとうございます。と話していました。」



## 「笑って元気、患者さんを笑わせたろ」開催

10月17日(土)

NPO法人難病患者障害者相談支援センターNSC主催による標題の患者支援事業が開催されました。当日は悪天候にもかかわらず、71名の患者さんやご家族の方々が参加しました。



まずNSC理事長の森田良恒氏がとぼけたおじさんに扮して「おなかの底から笑って下さい」と挨拶をし、そのあと第一部で藤島壽子さん指導による「ラフターヨガ(笑いヨガ)」の実践(写真上)があり、みんなで笑い方の研修(練習)を笑いながら行い、第二部で、落語家桂枝曾丸さんの「和歌山弁落語」と「古典落語」の二題で思いつきり笑わせてもらいました(写真左上)。



日々病気の不安が心の中を大きく占めている患者さんや家族の方々は、久しぶりに大きな口を開けて笑った方も多かったようです。日ごろ笑うことを抑制している一面もあり、心の凝りもほぐれたのではないかと思っています。なお当日参加ご協力いただいたきほく会員の方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。